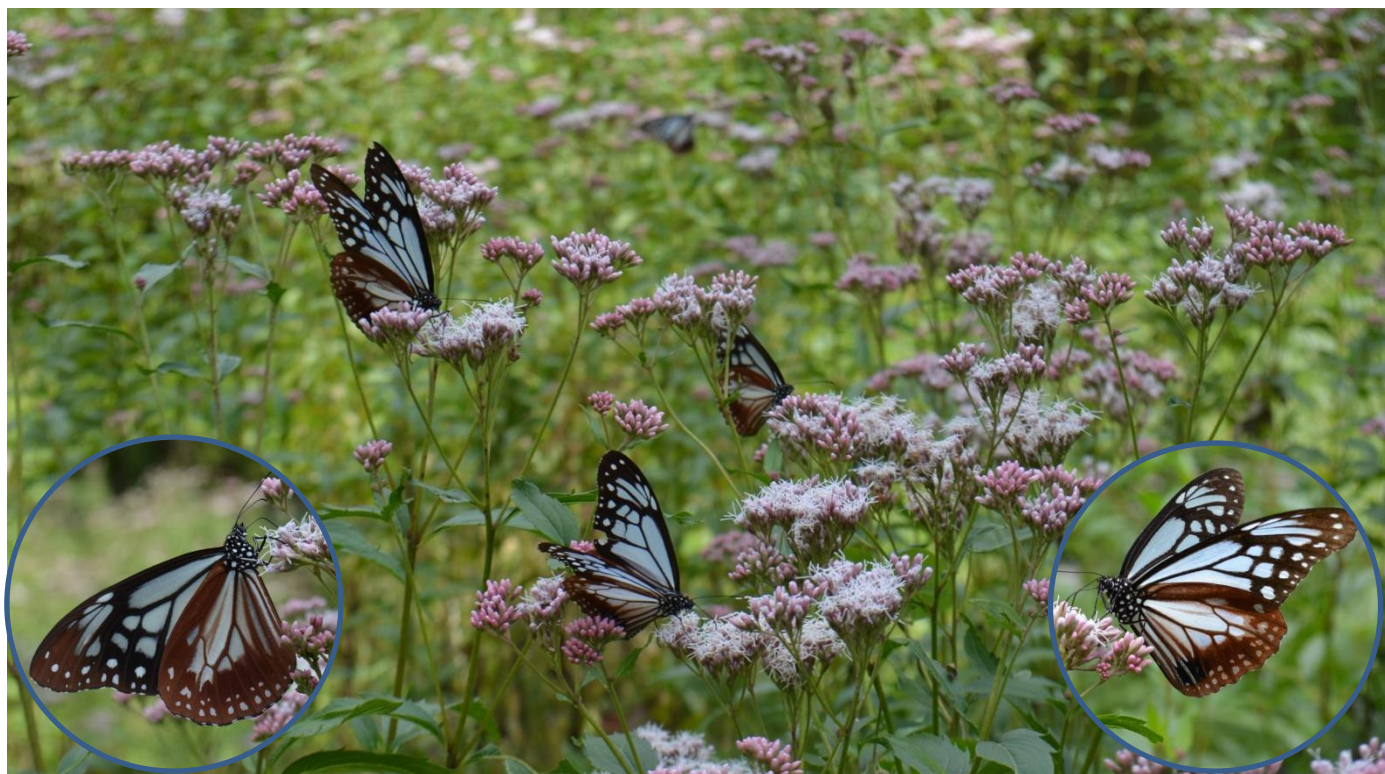


各 位

令和元年 9 月 1 日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



フジバカマの蜜を吸うアサギマダラの雌(写真左)と雄(写真右) 【前年の9月上旬に撮影】

渡り蝶のアサギマダラ

9月になるとアサギマダラが野草園のフジバカマの花にやってきます。蔵王の山々で生まれ育ったアサギマダラが南の方に移動するとき、その一部が野草園を通過していきます。アサギマダラの雄は成熟するためにフジバカマの蜜を吸う必要があります。雌を惹き付けるフェロモンを作るために必要な物質が、その蜜の中に含まれているからです。雄と雌の区別は後ろ羽の外側で出来ます。羽の茶色の模様の下の所に黒い斑点があるのが雄です。雌にはありません。ここで十分蜜を吸ったアサギマダラは、また次の蜜を求めて南への旅に出発します。

フジバカマ（キク科）

フジバカマは、遠く奈良時代に中国から渡ってきた帰化植物と考えられています。花の色が藤色で、花卉の形が袴（はかま）のようであることから、花の名がつけられたようです。万葉の時代から知られる秋の七草のひとつで、派手さはないけれども郷愁を感じさせる花姿が愛されてきました。かつて、関東平野や大阪平野の川べりや土手に多く自生していましたが、護岸工事や開発などで野原に群生する姿はほとんど見られなくなり、現在は準絶滅危惧種になっています。蔵王にはフジバカマの仲間のヨツバヒヨドリが群生しています。

野草園の「七草の庭」ではオミナエシやフジバカマ等の秋の七草の花が咲き誇り、渡り蝶のアサギマダラの写真を撮るカメラマンの姿が見られるようになります。アサギマダラは美しいばかりでなく、人を恐れないので近づいても逃げず写真を撮り易いです。そして、9月の連休は「秋の野草園祭り」があります。楽しいイベントを企画していますので是非ご来園下さい。

9月前半のイベント

※各イベントの詳細はホームページをご覧ください。

◆第26回【写真コンテスト作品募集】9/1(日)～9/20(金)

○内 容 平成30年10月以降に園内で撮影した作品を募集

◆【東北南3県ポタニカルアート作品展】

○日 時 9/1(日)～9/23(月・祝) 9:00～16:30 ※9/1は13:00から、9/23は15:00まで

○場 所 自然学習センター

○内 容 ポタニカルアート愛好者の作品約250点を展示、杉崎文子氏が描いた世界に一本の貴重なミヤマカスミザクラの作品も展示 ※9/15展示入替あり

◆【ガイドウォーキング】

○日 時 9/1(日)、7(土)、8(日)、14日(土)、15日(日)、16日(月・祝)

1回目10:00～11:00、2回目11:00～12:00、3回目13:00～14:00、4回目14:00～15:00

○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策し見頃の植物の案内をします。

申し込み不要、その場で参加できます。

○参加費 入園料300円のみ(高校生以下無料)

◆◆◆◆◆「秋の野草園祭り」9/14(土)～16(月・祝)◆◆◆◆◆

期間中のイベントの参加費はすべて無料です。(入園料別)

◆【水風船プレゼント】

○日時 9/14(土)～16(月・祝) 10:00～12:00と13:00～14:00

○場所 自然学習センター前 (無くなり次第終了)

◆【木の実のオブジェ作り講座】

○日 時 9/14(土) 13:00～15:00

○場 所 自然学習センター ピロティ

○内 容 野草園内の木の実を観察し、木の実を使った動くオブジェを作成

○講 師 野草園職員

○対 象 先着15人

○申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【山形まるごと市】

○日 時 9/15(日)、16日(月・祝) 10:30～15:00

○場 所 料金所の脇

○内 容 西蔵王の特産物などを販売します。

◆【乗馬体験】

○日 時 9/16(月・祝) 10:00～12:00、13:00～15:00

○場 所 自然学習センター前 中央広場

- 内 容 子供はポニー、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。
それぞれ先着100名（当日9:00～整理券配布） *雨天中止

◆【ミニ新幹線運行】

- 日 時 9/16（月・祝） 11:00～12:00、13:00～15:00
○場 所 自然学習センター前 中央広場
○内 容 東北ライブsteamクラブ須貝健二氏により中央広場で連続運行。*雨天中止

◆【65歳以上 無料入園日】9/16（月・祝）

敬老の日の趣旨から65歳以上の方は無料で入園できます。ご家族の方との来園をお待ちしています。



◆【ボタニカルアート体験講座】

- 日 時 9/20（金）10:00～15:00（昼食休憩あり）
○場 所 自然学習センターピロティ
○講 師 日本ボタニカルアート協会会員 杉崎紀世彦氏
○内 容 植物のデッサンと彩色、喫茶コーナーで昼食（昼食代別） ○持ち物 不要
○対 象 先着15人 ○参加費 入園料込1,100円（高校生以下800円）
○申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【薬草と薬膳を楽しむ健康ウォーキング】

- 問 株式会社萬屋薬局 TEL 023-623-1805
○日 時 9/29（日）10:00～12:30
○場 所 野草園内
○内 容 ウォーキングをしながら薬草等について専門家が解説、昼食は薬膳おにぎり・山形県産食材を使用した芋煮汁、昼食後希望者に骨密度測定
○主 催 株式会社萬屋薬局（共催 山形市野草園）
○講 師 萬屋薬局 薬剤師、山形済生病院健康増進センターめぐみ 健康運動指導士
野草園 植物案内ボランティア
○対 象 野外ウォーキングの可能な方 先着50人
○参加費 1,500円（入園料、昼食代、保険料等込） ○持ち物等 歩きやすい服装、飲み物
○申込み 電話で萬屋薬局まで TEL 023-623-1805

◆◆◆9月前半に見られる主な花たち◆◆◆



オミナエシ(オミナエシ科)

日当たりの良い山野に生える多年草で、「秋の七草」として知られています。葉は対生し羽状に分裂します。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。花の名前のオミナは“女”、エシは“飯”が訛ったことばで、花の様子を粟飯に例えています。



ハナトラノオ (シソ科)

北米原産で大正時代に渡来した草丈60～120cmの多年草で、茎は角張りピンク色の花の総状花序が直立します。1つの花は唇形で下から上へ順に咲いていきます。総状花序が虎の尾のようにやや長く、花が美しいことが花の名の由来です。



ウゼントリカフト (キンポウゲ科)

東北奥羽山脈を中心とした山地帯に生える多年草です。草丈50～180cmの茎の上部に青紫色の花を付けます。花弁に見えるのは萼片で、その中に細長い花弁が2枚あり、奥には距という部分があり蜜が分泌されます。雄しべと雌しべは入口の下側にあります。強い有毒植物です。



オオケタテ (夕霧科)

昔、日本に渡来した植物で、観賞用に植えられている高さ1～2mの大形の1年草です。直立した太い茎に、紅紫色の小花を穂状につけ垂れ下がります。小花の丸い5個の花弁状のものは萼片です。茎に毛が密生し、背が高いことが花の名の由来です。



ツリフネソウ (ツリフネソウ科)

山野の水辺に群生する草丈30～50cmの1年草で茎の先に数個の花がぶら下がります。花は紅紫色で距が著しく後ろに突き出て渦巻き状になります。花弁は3個で下は2個がくっついて唇弁になり、距がある袋は萼片です。花の形が花器の釣舟に似ていることが、花の名の由来です。



シュウメイギク (キンポウゲ科)

花びらのように見えるのは萼片で、花弁は退化しています。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊の仲間ではなく、キンポウゲ科アネモネの仲間です。本来赤紫色の花ですが、白色の品種が多く栽培されるようになりました。



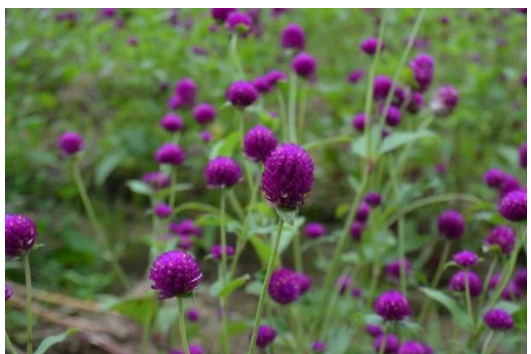
アキノノゲシ(キク科)

日当たりの良い荒地や草地に生える草丈0.6～2mの1～2年草です。下部の葉は羽状に裂けますが、上の葉は小さくて全縁です。茎の上部に円錐状に淡黄色の花を数個付けます。花は昼間開き夕方にはしぼんでしまいます。



ワレモコウ(バラ科)

山野に普通に生える多年草です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく4枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは4個で葯は黒く萼片より短いようです。花の名は紋所のモコウからきたものといわれています。



センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色ですが、淡紅色、または白いものがあります。花の名は、花が長持ちすることからきています。



タイワンホトトギス(ユリ科)

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30～50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われる。



カリガネソウ(クマツツラ科)

山地や林縁に生える草丈1m程の多年草です。不快な臭いを出すので近くに行くだけで気づきます。花は下側の唇弁が大きく、4個の雄しべと雌しべは共に長く下向きに湾曲します。花の様子を冬の渡り鳥の雁(かり)の飛ぶ姿に例えたことが、花の名の由来です。



ゴマナ(キク科)

山野の日当たりの良い所に生える多年草です。草丈が1～1.5mで茎や葉に細毛があり、触るとざらつきます。茎の上部で散房状に枝を分け、白い小菊のような花を多数付けます。白い花弁は舌状花で中心の黄色いところは筒状花です。名前は葉が“胡麻”の葉に似ているところからきているようです。



ナツスイセン(ヒガンバナ科)

観賞用に栽培されるほか、日当たりの良い草地に自生している多年草です。細長い葉は早春に伸びだし、地下の鱗茎に栄養を貯め、初夏には葉が枯れてしまいます。夏には60cm程の花茎を立ち上げ茎頂にラッパ形のピンクの花を数個咲かせます。名前は葉がスイセンに似ており夏に花が咲くからのようです。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、花は白く深く5裂しているのが特徴です。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と濃緑色の斑点が多数あります。この白い花弁を明け方の空に、斑点を星々に見立てたことが、「曙草」の名前の由来です。



センニンソウ(キンポウゲ科)

山野などの土地に生える多年生のつる植物です。茎は長く伸びてまばらに分枝し、葉と同様に無毛です。葉は対生、奇数羽状複葉で3～7枚の小葉があります。葉の腋に白色の花を多数つけます。萼片は4枚で十字形に平開し、それが花弁に見えます。伸びた花柱は白色の羽毛状になり、それが仙人のヒゲを連想させます。



サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草。茎の先に総状花序をだし、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻(しょうま)で解毒・解熱剤などに使用されました。